

## 5 特に保護が必要な種が生息・生育する地域

4に掲げる各種施策のうち、(1) 指定種、保護区域等における法規制において、希少野生動植物の個体の捕獲・採取等を制限し、生息地・生育地を保全するため、「特定希少野生動植物」及び「生息・生育地保護区」の必要性を述べている。

今回、これに先立ち、県民の野生動植物に対する保護意識の醸成等を図るため、「愛媛県野生動植物保護対策検討委員会」の委員等16名（参考資料：別表1）において検討し、県内で特に保護・保全策が必要な種が生息・生育する地域（地域が特定できない種に係る地域は県下全域とした。）を分類群ごとに次の要件に従い3つにランク分けし、一覧表のとおり取りまとめた。

### <分類群ごとのランク区分>

Aランク：愛媛県の自然環境を保全するうえで、最も重要な場所で、特に緊急に保護・保全策が必要な種が主に生息・生育する地域

Bランク：対策の優先度はAランクに及ばないものの、愛媛県としての注目種又は重要種が主に生息・生育する地域

Cランク：上記以外で、それぞれの分類群ごとに重要度が高いと判定された種が主に生息・生育する地域

### <取りまとめ結果>

特に保護・保全策が必要な種が生息・生育する地域 - 7 1 地域 - 2 3 3 種  
地域は特定できないが特に保護・保全策が必要な種 - 1 1 0 種

## 特に保護が必要な種が生息・生育する地域の一覧表

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
四国中央市 塩塚高原	C	高等植物	モリアザミ(CR)	塩塚高原では現存が確認されているが、その他の既報の産地では現在のところ確認されていない。
			コキンバイザサ(EN)	もともと稀少な植物だが、草地開発、遷移進行、園芸採取により減少した。
四国中央市 翠波峰	C	高等植物	ゴマノハグサ(CR)	翠波峰で記録されているのみである。
四国中央市 富郷	B	高等植物	ツゲ(CR)	県内の生育地は、蛇紋岩地に限られ、県内の生育地は1ヶ所のみである。
四国中央市 土居町赤星山	C	高等植物	エビラシダ(EN)	県内では分布も点在し、個体数も少ない種である。
			キレンゲショウマ(EN)	東予と中予の深山で現存が確認された。深山に生える稀な植物であり、園芸採取などにより減少している。
四国中央市 関川河口	B	鳥類	ズグロカモメ(EN) ヨシゴイ(VU) シギ類など	干潟に生息する鳥類が多く確認されている。
四国中央市 関川河口及び東側の前浜干潟	B	海産動物	全般	東予地域では、遠浅の海岸の埋め立てが進み、良好な前浜干潟がほとんど残っていない。同地には、ハクセンシオマネキ、スナガニ等多くの動物が生息するほか、スズキなどの水産業で重要な魚類の産卵、生育場所としても重要である。
			アミメキンセンガニ(VU)	本県で唯一の生息場所である。
赤石山系	A	高等植物	オトメシャジン(CR)	県の固有種で、赤石山系の蛇紋岩地にのみ自生する。なお、Bランクとしてチョウセンゴヨウ、ツガザクラがある。
	B	哺乳類	トガリネズミ(DD) ヤマネ(VU)	生息地が限定的なトガリネズミ、ヤマネが生息している。
		鳥類	ホシガラス(EN) コマドリ(NT) ルリビタキ(NT)	ホシガラスなど個体数の減少が危惧される鳥類が生息している。
	C	高等菌類	ツガマイタケ(CR+EN)	生育に関する情報はあがが確実な記録が少ない。
チョレイマイタケ(VU)			本州中部以北に生育する北方系の種であり、国内の分布上で重要である。	

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
赤石山系を水源とする東予地方の河川上流域	C	淡水魚類	ナガレホトケドジョウ(EN)	県下では唯一、当該水域のみで見られ、四国における分布の西限である。上流域における流域林の荒廃、砂防ダムなどによる移動の障害と個体群の分断などにより、個体群は減少を続けていると推測される。
西条市 加茂川・ 中山川河口	B	鳥類	カラシラサギ(CR) ヘラサギ(CR) クロツラヘラサギ(CR) ズグロカモメ(EN) シギ類など	渡り鳥の越冬地・中継地であり、ズグロカモメ等個体数の減少が危惧される種が多く渡来する。
		貝類	ウミゴマツボ(CR+EN) ヤマトシジミ(CR+EN) ワカウラツボ(CR+EN) サビシラトリ(CR+EN) カワアイ(VU) ミヤコドリ(VU) ハマグリ(VU) ウミニナ(NT) オオノガイ(NT)	絶滅危惧 類としたウミゴマツボ、ヤマトシジミ、ワカウラボ、サビシラトリ、絶滅危惧 類のカワアイ、ハマグリ、ミヤコドリ、準絶滅危惧のウミニナが生息している。特にヤマトシジミは県内ではこの2河口のみに生息し、サビシラトリは御荘湾では絶滅が考えられる状態であり、加茂川河口が県下唯一の生息地である。
		海産動物	全般  アリアケモドキ(CR+EN)	県下で最大の面積を持つ河口干潟で、良好な状態を保っている。ハクセンシオマネキ、スナガニなど、生息している動物の種類も多い。  本県で唯一の生息場所である。
西条市 加茂川 中山川とその周辺水域及び前浜干潟	B	淡水魚類	イトヨ(EX) スナヤツメ(CR) カジカ中卵型(CR+EN) ヤリタナゴ(EN) アカザ(EN) クボハゼ(EN) チクゼンハゼ(EN) メダカ(VU) トビハゼ(VU) シロウオ(VU) マサゴハゼ(VU) モツゴ(NT) ドジョウ(NT) カワアナゴ(NT) ヒモハゼ(NT) サツキマス(DD) イドミズハゼ(DD) キセルハゼ*	スナヤツメ・イトヨは現在見られないが、かつては普通に生息していたと見られる。サツキマスは中山川を中心に年間ある程度の遡上があるが、良好な繁殖地は極めて少ない。アカザは中山川、メダカは水田地帯を中心に分布している。カジカ中卵型は肱川で絶滅し、加茂川が四国唯一の安定した繁殖地であるとともに、中山川に一部生息が確認され、早急な保護が必要である。ハゼ亜目魚類はいずれも加茂川の良質な感潮域と前浜干潟に生息している。これだけの希少種の生息が確認されている水域は県下唯一である。 *キセルハゼ：県レッドデータブック刊行後に発見された。環境省レッドデータブック絶滅危惧 類

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
西条市 河原津海岸	B	海産動物	全般	東予地方に残された良好な状態を保っている干潟のひとつである。生息している動物の種類も多い。隣接している未利用の干拓地を干潟に回復させることも保護策として有効である。
			カプトガニ(CR+EN)	近年、本県で生息が確認されている数少ない場所のひとつであるが、生息しているのは放流個体である可能性が高い。
西条市 丹原町	C	両生類	オオサンショウウオ(DD)	鞍瀬川上流で有力な情報が相次ぎ、自然生息地としての可能性が高い地域である。
西条市 丹原町 久妙寺	B	高等植物	ヒキノカサ(CR)	かつては県内に広く分布していたが、生育に適した湿地、草地の開発、土地造成、管理放棄などで激減し、確認できた生育地は1ヶ所のみである。
西条市 丹原町 鞍瀬渓谷	C	高等植物	ミゾシダモドキ(EN)	森林伐採により絶滅の危険がある。
石鎚山系	A	哺乳類	ツキノワグマ(CR+EN) ニホンカモシカ(CR+EN) ホンドモモンガ(VU) ヤマネ(VU)	絶滅のおそれのあるツキノワグマ、ニホンカモシカが生息している可能性がある。
		昆虫類	イシツチオサムシ(VU) シウムネオオナガゴミムシ(VU)	主な分布域が石鎚山系に限定されている。
	B	鳥類	クマタカ(EN) ホシガラス(EN) コノハズク(EN)など	クマタカ等個体数の減少が危惧される鳥類が生息している。
	C	両生類	ブチサンショウウオ(VU) ハコネサンショウウオ(VU) オオダイガハラサンショウウオ(NT)	低山部から亜高山帯にかけてみられる分布であり、学術上貴重である。
今治市 蛇池湿原	B	高等植物	ヒメシロネ(CR)	県内の自生地は、1ヶ所だけである。現地では数100株が自生している。なお、蛇池湿原には、Cランクのホザキノミミカグサなどがある。
今治市 旧今治市海浜	B	高等植物	ハマビシ(CR)	現在、確実に自生が確認できているのは1ヶ所のみであり、四国でも本県にのみ分布する。
今治市 吉海町大島 (2地点)	B	両生類	ダルマガエル(CR+EN)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息地点が大三島・上浦の2ヶ所のみである。</li> <li>・生息地で確認された個体数では極めて少ない。</li> <li>・近隣の伯方ではすでに絶滅の可能性が高い。</li> <li>・生息地の基盤が脆弱な止水環境である。</li> <li>・日本の南限・西限である。</li> <li>・成体の確認は過去直近10年の間ではきわめて少ない。</li> </ul>
	C	爬虫類	イシガメ(VU)	分布地の個体数では、対クサガメとの間でおよそ1対50である。

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
今治市関前 小大下島	A	貝類	タダアツブタムシオイ (CR+EN)	全国で唯一の生息地である。
松山市 北三方が森	C	両生類	オオダイガハラサンショウウオ(NT)	幼生および成体の個体数が比較的少ない。
東温市 阿歌古溪谷	C	両生類	ハコネサンショウウオ (VU)	幼生および成体の個体数が比較的少ない。
東温市 黒森峠	C	高等植物	ナツアサドリ(CR)	四国でも唯一の生育地であり、個体数も少ない。樹林の遷移進行や伐採による減少が懸念される。
松山市 腰折山	B	高等植物	ゲンジスミレ(CR)	現存する個体はきわめて少なくなっており危機的状況である。本州の3地区でも発見され4ヶ所に隔離分布する。現地在四国で唯一の生育地であり、分布の西南限でもある。
			エヒメアヤメ(CR)	腰折山の自生地は国指定天然記念物に指定されている。園芸採取により減少し、また遷移進行によりススキなど高茎草本や低木が繁茂して衰退が著しい。
高縄山系	B	高等菌類	メシマコブ(DD)	九州以南を中心に生育する南方系の種であり、国内の分布上重要である。
高縄半島 (3地点)	B	両生類	カスミサンショウウオ (CR+EN)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息地点が旧今治市と旧波方町の丘陵地3ヶ所のみである。</li> <li>・既知産卵場で確認された個体数は極めて少ない。</li> <li>・生息地の基盤が脆弱である。</li> <li>・四国では西限という地理的特異性がある。</li> <li>・生息が知られてまだ日が浅い。</li> </ul>

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
松山市 興居島	A	海産動物	ゴゴシマユムシ(CR+EN)	1960年頃には、興居島と中島のそれぞれ複数の海岸で生息していたという記録があるが、現在では、本生息地と中島町の1ヶ所のみで生息が確認されている。生息面積、生息個体数も少ないことが推定されるうえに、両生息地とも港の中なので、港湾工事によって生息地が消滅するおそれがある。
		高等菌類	スズキセミタケ(CR+EN)	1950年代に埼玉県内で採集されて以来、国内での記録がなく、約50年ぶりに興居島で採取された。
	B	高等菌類	フデタケ(CR+EN)	2000年12月に、興居島で県内としては50年ぶりに確認された。南方系の種であり、国内の分布上重要である。
		高等菌類	オガサワラハリヒラタケ(DD)	2000年9月に興居島で四国初の生育が確認された。南方系の種であり、国内の分布上で重要。
松山平野南部の湧水群と、これを源流とする水路・小河川および周囲の水田地帯	B	淡水魚類	スナヤツメ(CR) アブラボテ(CR+EN) スジシマドジョウ中型種(CR+EN) ヤリタナゴ(EN) メダカ(VU) モツゴ(NT) タモロコ(NT) ドジョウ(NT) カワアナゴ(NT)	県下に比類なき遊水池の多さは特徴的であり、冷水を好む魚類の重要な生息地となっているほか、減水期や高水温期には大型魚など多くの魚種の一時的な待避場所として有効に機能している。後背湿地と並び本川の資源量維持に重要な役割を果たしており、保護の必要がある。また、この地域ではスナヤツメが過去、普通に生息していたが、近年発見例がない。ヤリタナゴとアブラボテは本水域が県下で最も個体数が多いと推定されるが、競争種タイリクバラタナゴの増加やヤリタナゴアブラボテの種間交雑が進むなど、個体群の攪乱が懸念される。
重信川水系の湧水群	C	昆虫類	オオカワトンボ(CR+EN)	以前は平地や山麓の清流から発生していたが、現在では重信川湧水群の内の特定の泉以外では発見されなくなった。
重信川河口	B	鳥類	ヘラサギ(CR) カラシラサギ(CR) クロツラヘラサギ(CR) シギ類など	渡り鳥の越冬地・中継地であり、ヘラサギ等個体数の減少が危惧される種が多く渡来する。
		海産動物	スナガニ(NT) ユビアカベンケイガニ(NT) ハマガニ(NT) ヒメアシハラガニ(NT)	中予地区で最大の河口干潟である。多くの種の海岸動物が生息するほか、魚類、鳥類も多くの種が生息している。生息する海岸動物は、魚類や鳥類の餌を供給するほか、魚類の産卵場、仔稚魚の成育場所としても重要である。
			ムツハアリアケガニ(CR+EN)	全国的に生息個体数が減少しており、日本本土では10ヶ所程度でしか生息が確認されていない。
			ハクセンシオマネキ(NT)	全国的に生息個体数が減少し、環境省レッドデータブックでも準絶滅危惧(NT)に指定されている。同地域は、面積、個体数ともに国内でも最大の生息地のひとつである。
松山市石手川上流域	A	昆虫類	チャマダラセセリ(VU)	四国における生息地は松山市石手川上流域の一部に限定され、最近ではほとんど発見されなくなった。四国固有亜種と考える研究者もいる。有志による保護活動が開始されたが、絶滅が危惧される状況にある。
松山平野	C	両生類	トノサマガエル(VU) ニホンアカガエル(NT)	低地部では、著しく個体数が減少し、生息域が縮小している。

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
砥部町	C	爬虫類	タワヤモリ(NT)	県内では比較的珍しい内陸部の生息地である。
伊予郡内	C	高等植物	タシロラン(CR)	伊予郡内で確認された。もともと県内では個体数が少なく、生育に適した森林の伐採、土地造成などで減少している。
			ミヤマモジズリ(CR)	現存が確認できたのは中予の1ヶ所のみである。もともと極めて稀な植物である。
皿ヶ嶺 竜神平	B	高等植物	アオタチカモメヅル(CR)	四国で唯一の生育地である。
			ニシキゴロモ(CR)	山地の明るい林縁に生育するが、自然遷移なり暗くなれば消えてゆく。最初の発見より約50年ぶりに再発見された。
			ヒメナミキ(CR)	久万高原町で1ヶ所の現存が確認されており、他に西条市の記録がある。
久万高原町 古岩屋岩屋寺	B	高等植物	イヨクジャク(CR)	自然林の林下などにごく稀に生育しているが、生育環境自体が少なくなり、減少を早めている。
			イワヤシダ(EN)	県内では生育地が限られている。
久万高原町 入野	B	高等植物	ヤマトミクリ(CR)	久万高原町の小さなため池だけで生育が確認されている。
久万高原町 沢渡	C	高等植物	イワシデ(EN)	県内では石灰岩の岩場など限られた立地に生育しており、個体数も限られている。
久万高原町 中津明神山	C	高等植物	キスミレ(EN)	生育地も限定されており、個体数も極めて少なく、園芸採取も懸念される。
久万高原町 黒藤川	C	高等植物	オヒルムシロ(EN)	関西以西では稀な水草である。県内においては数ヶ所の記録が残るが、現在確認できるのは1ヶ所のみである。
笠取山、大川嶺、美川峰一帯	C	高等植物	サカバイヌワラビ(CR)	ブナ林内にごく稀に生育しているが、個体数が極めて少なく、絶滅の危険性の高い種である。
			ヒナワチガイソウ(EN)	樹林内にごく稀に生育するもので、2ヶ所で現存が確認され、他に1ヶ所の記録がある。

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
四万十川へ流入する南予地方の河川	C	淡水魚類	ヤリタナゴ(EN) イシドジョウ(EN) アカザ(EN) メダカ(VU) タモロコ(NT) ドジョウ(NT)	四万十川支流上流域を担っているにもかかわらず、比較的流域が開けているため、河川改修や生活排水の流入、流域林の伐採などで水域の荒廃が進行している。広見川本流では河床の目詰まりと懸濁物の増加が目立ち、清流性の魚種が見られなくなりつつある。また、滑床渓谷は国定公園内でありながら、キャンプ場や大規模宿泊施設の建設が進み、流域の荒廃が懸念される。四万十川本流へ与える影響も懸念され、早急な水域環境の保全が必要である。
四国カルスト	B	哺乳類	ヤマネ(VU) コウモリ類	生息地が限定的なヤマネ及びコウモリ類の複数の種が生息している。
		鳥類	オオジシギ(CR) クマタカ(EN) ホオアカ(NT)など	オオジシギなど、個体数の減少が危惧される種が確認されている。
	C	高等植物	キリシマミズキ(CR)	久万高原町の高海拔地の山中に自生するのみであり、個体数は少ない。
			ミヤマザクラ(CR)	本県の生育地は1ヶ所のみである。
			コウシュウヒゴタイ(EN)	四国カルストのみに自生しており、個体数も少ない。四国カルストは分布の西南限である。
			ミドリヨウラク(EN)	近年は、四国カルストで確認されたのみである。
ヒメイワトラノオ(CR)	ブナ帯の石灰岩地域のコケとともに生育している。小さなシダ植物であり、他の草本類に隠れていて発見しにくい。個体数はきわめて少ない。なお天狗高原にはCランクの種としてサクラスミレ、ミヤマウコギなどがある。			
小田深山	B	哺乳類	ホンドモモンガ(VU) コウモリ類	生息地が限定的なホンドモモンガ及びコウモリ類の複数の種が生息している。
		鳥類	クマタカ(EN) コノハズク(EN)など	クマタカなど、個体数の減少が危惧される鳥類が生息している。
	C	高等植物	チチブホラゴケ(EN)	県内における過去の記録はあるが、具体的な産地は不明である。現在、生育が確認できたのは内子町内の2ヶ所だけである。小田深山にはCランクのものとしてヤナギアザミ、ギボウシラン、スズムシソウ、キヨスミオオクジャク、タニヘゴ、ミドリワラビ、イワヤシダホテイシダ、ヒナノキンチャク、キスミレ、ミヤマナミキがある。



地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
燧灘及び伊予灘沿岸松林	B	高等菌類	ショウロ(VU)	かつては瀬戸内沿岸の松林に広く分布していたが、生育に適した林が著しく減少した。
			シモコシ(VU)	かつては瀬戸内沿岸の松林に広く分布していたが、生育に適した林が著しく減少した。
大洲市出石山	C	高等植物	コケミズ(EN)	もともと稀な種であり、森林伐採などで減少している。
伊方町亀ヶ池	C	高等植物	コシロネ(EN)	各地の湿地や溜池周辺で見られたが、自生地の開発、植生遷移により減少傾向にある。
三崎町あみだ池	C	高等植物	イヌクログワイ(CR)	南方系の植物であり、本州では4県ほど、四国では徳島県と本県に分布し、三崎町あみだ池と今治市桜井で採集されているが、現況は不明である。
佐田岬半島	B	鳥類	ハチクマ(NT) サシバ(NT) ハヤブサ(VU) ハイトカ(NT) オオタカ(VU) ミサゴ(NT)	日本有数の猛禽類、その他の鳥類の渡りルート ハヤブサ、ミサゴの繁殖・越冬地
西予市稲生	B	高等植物	ヤブレガサモドキ(CR)	西予市内の植林内に生育しているのみである。今後、厳重な保全が求められる。
西予市野村町桂川溪谷	C	高等植物	カツラガウスゲ(仮称) (CR)	1988年に西予市野村町で発見された。1990年には大洲市の1ヶ所でも見つかったが、2年前には、道路拡張工事により消滅していた。従って、野村町の1ヶ所は本種のわが国における唯一の自生地であり、希少性が極めて高い。 など桂川溪谷にはCランクの種としてヌカイタチシダマガイなどがある。
西予市大野ヶ原	C	高等植物	コウライイヌワラビ(CR)	最初の記録以後は長い間確認されていなかったが、最近、数株の現存が確認された。その他、大野ヶ原にはCランクの種としてナガボノナツノハナワラビ、イチョウシダ、タニヘゴ、ツクシクサボタン、ヒナノキンチャク、サクラスミレ、ヤナギタンポポなどがある。
宇和島市下波	B	高等植物	オオカナメモチ(CR)	産地が限定されており、隔離分布している。
宇和島市権現山	C	高等植物	ミヤマナミキ(EN)	宇和島市内子町において記録があるが、今回の調査で東温市と久万高原町の2ヶ所で確認された。生育地及び個体数ともに少ない。

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
宇和島市 日振島	C	高等植物	ハカマカズラ(EN)	宇和島市日振島・御五神島、愛南町当木島において記録があり、愛南町の無人島の1ヶ所で分布が確認されている。本種の分布が四国における北限である。
			グンバイヒルガオ(EN)	南予の海岸でまれに記録があるが、今回の調査では確認できなかった。砂浜に生育するが、南予では砂浜が非常に少なく、生育地の減少が懸念される。
宇和島市 御五神島	C	高等植物	ハカマカズラ(EN)	宇和島市日振島・御五神島、愛南町当木島において記録があり、愛南町の無人島の1ヶ所で分布が確認されている。本種の分布が四国における北限である。
鬼ヶ城山系	B	鳥類	ヤイロチョウ(EN) クマタカ(EN)など	個体数の減少が危惧されるヤイロチョウなど、森林性鳥類が多く確認されている。
		貝類	シコクタケノコギセル (CR+EN)	県下で3ヵ所しかない生息地の1つである。
	C	高等植物	ヨウラクラン(CR)	西条市と久万高原町の記録があり、宇和島市で現存が確認された。その他、Cランクのものとして、ハルノタムラソウ、ミヤマナミキがある。
津島町 御内	C	高等植物	ヒナノカンザシ(CR)	生育地が限られており、個体数も少ない。
			ムギガラガヤツリ(CR)	本種は熱帯から亜熱帯地方に分布するカヤツリグサ類で、四国では高知県と本県に分布が知られていたが、高知県では絶滅種になった。従って、この自生地はわが国の分布の東限である。その他、Cランクのものとしてスイランなどがある。
津島町 御内	C	高等植物	イトイヌノハナヒゲ(CR)	津島町以外は現状不明である。生育地が池のほとりの湿地であるため、湿地の乾燥化や高茎草本の侵入などにより消滅するおそれがある。
津島町 袛川溪谷	C	高等植物	ツクシノキシノブ(EN)	県内では極めて珍しいが、森林伐採などによって減少している。
戸祇御前山	C	高等植物	ヨコグラツクバネソウ (EN)	旧広見町の記録がある。極めて稀な植物である。

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
津島町 岩松川水系	B	淡水魚類	イシドジョウ(EN) クボハゼ(EN) オオウナギ(VU) メダカ(VU) シロウオ(VU) マサゴハゼ(VU) ドジョウ(NT) カワアナゴ(NT) ヒモハゼ(NT) サツキハゼ(NT) チチブモドキ(DD) アカメ(DD) ユゴイ(DD)	本水系のオオウナギは県の天然記念物であるが、近年確実な記録はない。本水系のイシドジョウは県下で最も個体群規模が小さく、絶滅可能性が高い。ハゼ亜目魚類はいずれも岩松川の良質な河口干潟に依存して生息しており、保護の必要がある。特にシロウオは地域の重要な観光および水産資源となっており、重要度が高い。
津島町 御代ノ川	A	高等植物	トキワバイカツツジ(CR)	本県の固有種で、生育地が1ヶ所と極めて限定されており、近年の減少率が大きい。
愛南町 荒檜	B	高等植物	ミズキンバイ(CR)	全国的に、もともと産地が少なく、県下においても自生を確認できるのは1ヶ所である。
愛南町 篠山	B	高等植物	コモウセンゴケ(CR)	県内では数箇所の記録があるが、現在では篠山山麓のみに生育する。
	C	高等植物	キリシマエビネ(CR)	園芸採取で個体数が激減し、詳細な本種の県内における分布は不明である。
愛南町 鹿島	C	高等植物	タチバナ(CR)	南予の数ヶ所で生育しているが、自生と判断できるのは愛南町鹿島の1ヶ所のみである。 なお、鹿島には、Cランクの種としてハウライシダ、ハドノキなどがある。
愛南町 西海	A	高等植物	ヒナノボンボリ(CR)	本県の固有種で、海に近い常緑樹林の林下に発生する極めて珍しいものである。腐生植物であり、毎年発生するとは限らず、長期間にわたる観察が必要である。2001年の調査では発生は見られなかった。
愛南町 御荘湾	A	貝類	フネアマガイ(CR+EN) ウミゴマツボ(CR+EN) ナラビオカミミガイ(CR+EN) クリイロコミミガイ(CR+EN) タケノコカワニナ(VU) ヒメカノコ(EX) スダレハマグリ(EX) ワカウラツボ(CR+EN) ドロアワモチ(CR+EN) イチョウシラトリ(CR+EN) サビシラトリ(CR+EN) ミヤコドリ(VU) イボウミニナ(VU) ヘナタリ(VU) カワアイ(VU) ハマグリ(VU) イボキサゴ(NT) ウミニナ(NT)	絶滅危惧 類としたフネアマガイ、ウミゴマツボ、ナラビオカミミガイ、クリイロコミミガイ、ワカウラツボ、ドロアワモチ、イチョウシラトリ、サビシラトリ、絶滅危惧 類のタケノコカワニナ、ミヤコドリ、イボウミニナ、ヘナタリ、カワアイ、ハマグリ、準絶滅危惧のイボキサゴ、ウミニナなど県レッドデータブックに掲載した多くの種が生息している。特に、ドロアワモチは四国唯一の生息地であり、イボウミニナは県下唯一の生息地である。また絶滅としたヒメカノコとスダレハマグリが復活している。

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
愛南町 御荘湾	A	海産動物	全般	南予で最大の面積を持つ干潟が湾奥に存在するほか、流入河川の河口に小規模な干潟が見られる。生息している動物の種数が多いが、とくに絶滅危惧種が多く見られるのが特徴である。県レッドデータブックに掲載されている貝類を除く海産無脊椎動物19種のうち8種の生息が確認されている。加えて、流入河川には、県レッドデータブック掲載の淡水産甲殻類3種のうち、2種の生息が確認されている。
			シオマネキ(CR+EN)	全国的に生息数が減少しており、本県唯一の生息地である。現在確認されている生息地は、面積が小さいことに加えて、人家に隣接している。
			フジテガニ	他県でも数ヶ所しか生息が報告されていない。生息個体数は少ない。1998年に国内で初めて和歌山県で分布が確認された。現在確認されている生息地は、面積が小さいことに加えて人家に隣接している。また、地元からは埋め立ての要求が出されている。
			ムツハリアケガニ(CR+EN)	全国的に生息個体数が減少しており、日本本土では10ヶ所程度しか生息が確認されていない。
愛南町 当木島	B	淡水魚類	チクゼンハゼ(EN)	オオウナギは県の天然記念物であり、本水域は定期的に生息が確認されている唯一の場所である。ハゼ亜目魚類はいずれも御荘湾の良質な河口干潟に依存して生息しており、保護の必要がある。
			オオウナギ(VU)	
			メダカ(VU)	
			トビハゼ(VU)	
			シロウオ(VU)	
			タネハゼ(VU)	
			マサゴハゼ(VU)	
			クロコハゼ(VU)	
			ゴマハゼ(VU)	
			ドジョウ(NT)	
			カワアナゴ(NT)	
			ヒモハゼ(NT)	
			サツキハゼ(NT)	
クロホシマンジュウダイ(DD)				
チチブモドキ(DD)				
愛南町 当木島	C	高等植物	ゲンバイヒルガオ(EN)	南予の海岸でまれに記録があるが、今回の調査では確認できなかった。砂浜に生育するが、南予では砂浜が非常に少なく、生育地の減少が懸念される。
宇和海 島嶼部	B	鳥類	カラスバト(CR) カンムリウミスズメ(EN) ハヤブサ(VU) ミサゴ(NT)	生息環境の脆弱性 繁殖地が限定的 個体数の減少が危惧される鳥類が生息
宇和海沿岸	A	哺乳類	ニホンカワウソ(CR+EN)	絶滅のおそれのあるニホンカワウソが生息している可能性がある。
南予一帯	C	高等植物	ヒメミゾシダ(EN)	もともと極めて稀なシダであり、森林伐採により減少している。なお滑床渓谷にはCランクとしてマルミノヤマゴボウ、バイカオウレンがある。
			カンラン(CR)	南予の5地区で記録があり、今回の調査では1ヶ所で確認できた。しかし、園芸採集により、産地はほぼ絶滅状態である。

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由	
県下全域 (陸水)	A	淡水魚類	スナヤツメ(CR)	かつて松山平野に多産し、市の天然記念物に指定されているほか、西条の水田地帯でも記録があるが、体系的な調査でも近年全く発見されず、絶滅のおそれが極めて高い。	
県下全域 (河川)	B	鳥類	コアジサシ(EN)など	個体数の減少 生息環境の脆弱性	
県下全域 (森林)			オオタカ(VU) サシバ(NT) ハチクマ(NT)など	生態系の上位種 生息繁殖地が限定的	
			ブッポウソウ(EN)	繁殖地の脆弱性	
県下全域 (海岸)			ハヤブサ(VU) ミサゴ(NT)	生態系の上位種が生息 繁殖地が限定的	
県下全域 (湖沼)			トモエガモ(VU)	渡来数の減少	
県下全域 (湿地)			ナベヅル(VU) マナヅル(VU)	生息環境の脆弱性	
県下全域			B	昆虫類	ハマスズ(CR+EN)
	ゲンゴロウ(CR+EN)	かつては県内各地に生息していたが、水系の農薬汚染、街灯の普及等の原因で、現在では確実な生息地はない。			
	タガメ(VU)	かつては県内各地に生息していたが、現在では恒常的に生息している池沼はない。			
	C	鳥類		ヒクイナ(NT) タマシギ(NT)	個体数の減少 生息環境の脆弱性
				アビ(NT) オオハム(NT) シロエリオオハム(NT) アカエリカイツブリ(NT)	越冬場所が限定的
				フクロウ(NT) オオコノハズク(DD) アオバズク(NT)	繁殖環境の脆弱性
				ヤマドリ(NT)	分布が限定的(シコクヤマドリ)

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
県下全域	C	高等植物	ナンカクラン(CR)	県内では極めて稀なもので、溪流沿いなどの湿度のある場所でたまに見る。
			マツバラ(CR)	生育環境の変化や園芸採取のため減少している。
			イチヨウラン(CR)	東予と中予の山岳にごく稀に生育するが、現存が確認できたのは中予山岳の1ヶ所のみである。もともと稀な植物であり、園芸採取などにより著しく減少している。
			シバナ(EN)	今治市大西町、津島町玉ヶ月、愛南町垣内で現存を確認したが、海岸・河口の開発、土地造成により減少している。
			シナミズニラ(CR)	1999年に西予市宇和町のため池で発見されたが、その後、他の生育地は確認されていない。現地では数100株が群生しているものの、溜池の改修などにより、一挙に消滅する危険性もある。
			フクジュソウ(VU)	県内で5ヶ所の記録があり、今回の調査でそのうちの2ヶ所の現存を確認した。もともと極めて少ない種だが、園芸採取により激減した。
			タキミシダ(CR)	中予で1ヶ所、南予で2ヶ所の現存が確認され、他に東予と中予で数ヶ所の記録がある。もともと稀なものだが、生育に適した渓谷沿いの自然林の減少と園芸採取により激減している。
			クラガリシダ(CR)	小田深山や面河渓谷で確認されている。生育に適した森林の伐採が減少の主要因であり、道路工事、園芸採集などの影響も大きい。
			オオクボシダ(CR)	もともと県内には個体数が少なく、森林伐採、道路工事、園芸採集などにより、さらに減少している。
			サンショウモ(CR)	生育地が極めて少なく絶滅が懸念される。平野を中心に水田周辺や溜池に多く見られたが、除草剤の使用や自生地の開発により激減した。
			ヤナギヌカボ(CR)	西条市丹原町、東温市(旧川内町)、松山市、松前町、西予市宇和町などで記録されているが、近年の確認は西予市宇和町の1ヶ所のみである。
			タチハコベ(CR)	現存が確認できたのは久万高原町(旧柳谷村)、内子町(旧小田町)など数ヶ所である。森林伐採、道路工事、遷移進行などにより急減した。
			オキナグサ(CR)	県内に6ヶ所以上の記録があり、今回の調査ではそのうちの1ヶ所のみ生育が確認された。園芸採取や草地開発、遷移進行により急減した。
ヒツジグサ(CR)	県内では、大野ヶ原など数ヶ所で自生の記録がある。現在では腐植栄養、貧～中栄養の溜め池でわずかに見られるだけである。水質汚濁、池沼の開発により減少した。今治市朝倉、大洲市などにも生育しているが、いずれも植栽の可能性が否定できない。			

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
県下全域	C	高等植物	ミズオトギリ(CR)	もともと極めて稀な種であり、湿地開発・圃場整備などにより減少している。
			アゼオトギリ(CR)	水田の畦や溜池の堤に見られたが、植生遷移、自生地の開発により減少し、わずかな個体を確認するのみである。
			ミズスギナ(CR)	全国的にもともと産地の少ない種で、県下では西条市下鳥山と新居浜市大生院の2地区で見られる。ため池開発、水質汚濁で減少している。
			ホソバナツルリンドウ(CR)	確認された生育地は1ヶ所であるが、情報が少ないので現状が把握できない。
			オオヒキヨモギ(CR)	今治市玉川町鈍川の記録があるのみである。道路工事や草地開発などにより減少している。
			ハマウツボ(CR)	海岸の護岸改修や道路工事などにより急減している。
			オニツクバネウツギ(CR)	西予市三瓶町、津島町の記録がある。本県と高知県の固有種であり、生育地が限定されていること、個体数が非常に少ないことで、生育地の減少、森林伐採、遷移進行などによる生育環境の悪化が懸念される。
			オオササエビモ(CR)	県内では、今のところ1ヶ所の自生地しか確認されていない。もともと産地が少なかったと考えられる。自生地での減少は見られないが、水域での環境の変化があれば容易に消滅する可能性がある。
			コバノヒルムシロ(CR)	伊予市で現存が確認されたのみである。ホソバミズヒキモと誤認されやすい。もともと極めて稀な種であり、四国全域でも現存する生育地はわずかである。
			ツツイトモ(CR)	県内では1ヶ所で見られるのみである。減少傾向は見られないが、水域での環境の変化があれば容易に消滅する可能性がある。
			ウエマツソウ(CR)	もともと極めて稀な植物であり、個体数も産地もわずかである。非常に小さいために発見も難しい。暖地の社叢林や渓谷林の伐採や荒廃により減少するおそれがある。
			キバナノアマナ(CR)	薬用・園芸採取により減少する危険がある。四国全域でも現存する生育地はわずかであり、極めて危険な状況にある。
			マイヅルテンナンショウ(CR)	西予市野村町の山地と肱川沿いで確認された。
キンセイラン(CR)	もともと極めて少ない種であり、園芸採取や森林伐採により減少した。			

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
県下全域	C	高等植物	ササバギンラン(CR)	森林伐採や園芸採取のため減少しており、今回の調査では確認は1ヶ所だけである。
			シロテンマ(CR)	県内では稀である。生育に適した森林の伐採などで激減したと思われる。
			アオテンマ(CR)	生育に適した森林の伐採などで激減した。
			カゲロウラン(CR)	本種の分布の北限にあたり、個体数が非常に少ない。
			ヤクシマアカシュスラン(CR)	愛南町(旧西海村)の1ヶ所で確認された。照葉樹林内にごく稀に生育しており、四国における本種の分布の北限にあたると思われる。
			ヨウラクラン(CR)	西条市小松町と久万高原町の記録があり、宇和島市で現存が確認さ
			ヒロハノエビモ(EN)	全国的に西日本では、稀な水草である。県内では、1ヶ所の河川とその周辺水域に見られる。
			カワツルモ(EN)	数ヶ所の海浜地区で見られる。
			ムサシモ(EN)	平野のため池・水田に見られる。
			ユウスゲ(EN)	久万高原町で現存が確認され、松山市の記録がある。
			ヒメユリ(EN)	2ヶ所で現存が確認されており、他に3ヶ所の記録がある。
			ノハナショウブ(EN)	以前は平地の湿地やため池などにも生育していた。
			ツルギテンナンショウ(EN)	東赤石山と石鎚山に生育するのみである。
			イシツチテンナンショウ(EN)	石鎚山のみで生育し、個体数もわずかである。
			シコクテンナンショウ(EN)	もともと極めて稀な植物である。
			シコクヒロハテンナンショウ(EN)	東予・中予の山岳の5ヶ所で生育が確認された。
			ウラシマソウ(EN)	今回の調査で松山市での生育が確認された。稀な植物である。
			オオミクリ(EN)	中予と南予に稀に生育する。
			コバノウシノシッペイ(VU)	池沼の縁や湿地に生育するが、県内の生育地は南予の平地に局所的にみられるが、生育地、生育量は少ない。



地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
県下全域	C	高等植物	オオナキリスゲ(EN)	もともと稀産種であるため、本県を含めた分布県は7県で、しかも各県とも数ヶ所にしか分布してなく、また、生育量も多くない。本県の産地はオオナキリスゲの分布の西限にあたる。
			ヤマアゼスゲ(EN)	県内では、山間部や中山間地の川端などに生育しているが、局地的で生育量も少ない。
			ヤチカワズスゲ(EN)	谷地(湿地)に生えるスゲ。四国では近年になって本県だけで確認された。いずれも小面積であり、減少ないし絶滅の危険性がある。
			コジュズスゲ(EN)	本県では稀で、記録のある場所での現存は確認できない。生育地が農耕地付近などのため、主に土地の改変や農薬汚染の影響が懸念される。
			アゼスゲ(EN)	松野町以外、現存は確認できない。
			エゾハリイ(EN)	北方系の植物で、本県では、内陸の山地の湿地と池畔の2ヶ所で確認されているが、局地的で小面積である。
			チャボイ(EN)	四国では徳島県(2市)と本県に分布している。本県の3地域は、塩性湿地に生育している。いずれも小面積であり、また海岸に近いため、埋め立てや水路の改修などの人為の影響を受けやすく、今後減少ないし絶滅するおそれがある。
			イトイヌノハナヒゲ(CR)	本県では、暖地の主にため池の湿地やその付近に見られる。
			マツカサススキ(EN)	池やダム湖のふちの湿地にごく稀に見られ、生育面積・生育量ともに少ない。久万高原町は記録によるもので、現況は不明である。
			ウキヤガラ(EN)	県内では、海近くの池や川のほとりの水中に稀に生えているが、確認個体数は多くない。
			カガシラ(EN)	わが国ではやや稀であり、四国では本県だけのようである。
			シンジュガヤ(EN)	松山市ではため池の堤体上に少数生育していたが、ごく稀な植物である。
			ヒナラン(EN)	県内では2地点で現存が確認されており、他に3地点の記録がある。
			イワチドリ(EN)	東予で1ヶ所の現存が確認されており、他に1ヶ所の記録がある。もともと稀少な種である。
			シラン(EN)	東予2ヶ所と南予1ヶ所で現存を確認し、東予1ヶ所と中予3ヶ所の記録がある。
			ナツエビネ(EN)	東予2ヶ所、中予1ヶ所、南予2ヶ所の記録がある。園芸採取により減少している。
キエビネ(EN)	園芸採取のため急減している。			

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
県下全域	C	高等植物	サルメンエビネ(EN)	県内で6ヶ所(旧市町村単位)以上の記録があるが、今回の調査では南予で確認された。もともと稀な種である。
			ユウシュンラン(EN)	県内にはごく少数の自生があるものと考えられる。
			アオチドリ(EN)	脊梁山脈で3ヶ所の記録がある。もともと稀な種である。
			ツリシュスラン(EN)	かつては県内に広く分布していたが生育に適した湿地、草地の開発、土地造成、管理放棄などで激減し、確認できた生育地は南予の1ヶ所のみであった。
			サギソウ(EN)	東予の2ヶ所で自生が確認できたのみである。もともと希少な種である。
			ミズトンボ(EN)	全県で6ヶ所の記録があるが、今回の調査で確認できた生育地は東予の1ヶ所のみであった。
			ムカゴソウ(EN)	5ヶ所の記録があるが、今回の調査で確認できたのは東予と南予の計2ヶ所である。
			フガクスズムシソウ(EN)	中予の山地で現存を確認したが、生育に適したブナ林の伐採と園芸採集により、自生地が激減している。
			セイトカスズムシソウ(EN)	東予と中予で4ヶ所の記録があり、中予山地の1ヶ所で現存を確認した。かつては県内の落葉樹林下に広く分布していたが主に園芸採集により激減した。
			ヒナチドリ(EN)	中予と南予で3ヶ所の記録があり、今回の調査では確認できなかった。もともと極めて稀な植物であり、園芸採取や森林伐採などで減少している。
			ウチョウラン(EN)	東予と中予で4ヶ所の記録があり、中予の1ヶ所で確認された。県内の岩壁にイワヒバなどとともに、かなりの個体数が生育していたが、園芸採集などにより激減した。
			ガンゼキラン(EN)	南予の2ヶ所で記録があるが、今回の調査では確認されなかった。園芸採取と同時に、森林の伐採に伴う生育地の減少が個体数の激減の原因であると考えられる。
			ミズチドリ(EN)	生育に適した湿地の開発や園芸採集などにより減少した。
			トキソウ(EN)	中予の丘陵の湿地で1ヶ所の現存を確認した。
			ヤマトキソウ(EN)	東予と中予の山岳で各1ヶ所の現存を確認した。もともと極めて稀な植物である。
			カシノキラン(EN)	中予の丘陵で確認された。

地域区分	ランク	分類群	保護が必要な種	地域及び種の選定理由
県下全域	C	高等菌類	ガマタケ(EX)	旧喜多郡五十崎町で1916年に採集されて以来、確実な記録がない。
			エヒメウスバタケ(EX)	松山市内で1916年に採集されて以来、確実な記録がない。
			ガヤドリナガミノツブタケ(CR+EN)	日本各地では確認されているが、松山市では1957年に確認されてから確実な記録がない。
			イカタケ(VU)	南方系の種であり、国内の分布上重要である。
			アカイカタケ(VU)	南方系の種であり、国内の分布上重要である。
			ドクササコ(県調査種)	日本海沿岸に生育する北方系の種であり、国内の分布上重要である。